

## 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第23回〕会議録

1. 附属機関等の会議の名称 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第23回〕

2. 開催日時 令和4年10月6日(木) 19時00分から20時40分まで

3. 開催場所 松川町役場 2階 大会議室

4. 出席者氏名

【松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員】※敬称略

知久克志、新井正彦、村田肇、矢澤登、北林昇、唐沢寛文、下澤義彦、米山俊孝、  
黒澤哲郎、高坂龍夫、小澤文人、松下敏章、北沢公彦、熊谷宗明、熊谷誠、神田葉子、  
松浦善文、小林幸彦、西尾明廣、北原俊秀、寺沢茂春

【JR東海】

中央新幹線建設部 名古屋建設部 古谷担当部長

中央新幹線長野工事事務所 杉浦所長、太田垣課長、村中副長、齋藤主任

// 大鹿分室 水上室長、水野主任

【長野県】

飯田建設事務所 リニア整備推進事務所 大島企画幹兼調整課長、田中課長補佐

【役場】

宮下町長、岡田副町長、小沢課長、片桐係長

5. 議題

(1) 発生土運搬について

1) 松川町より

①町道整備の進捗状況と運行ルートの変更時期について

2) JR東海より

①大鹿村内リニア工事進捗状況

②発生土運搬車両の運行状況

③環境測定の結果

④令和5年度にかけての発生土運搬計画

3) 質疑応答

6. 非公開の理由(会議を非公開とした場合)

—

7. 傍聴人の数

6人

8. 会議資料の名称

・会議次第(町作成)

- ・別紙資料（松川町作成作成）
- ・別冊資料（JR 東海作成）

## 9. 会議の概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 会議事項  
上記のとおり
- (4) その他  
松川町のリニア関連事業について  
モニタリング調査、移動コンテナ局測定結果について
- (5) 閉会

## 10. 会議録

（下澤副委員長）

皆さんこんばんは。1日の仕事のお疲れの中、大変ご苦勞様でございます。それではただいまより第23回松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

（小沢課長）

それでは2番の挨拶ということで黒澤委員長お願いいたします。

（黒澤委員長）

どうも皆さんこんばんは。大変日も短くなりまして、先ほどのニュースを聞いておりましたら長野県内でも横手山の方では雪が降ったということでございます。本日は本当お寒い中、足元の悪い中、皆さんご参集いただきましてありがとうございます。

本日、第23回目の対策委員会ということでありますが、先ほど事務局から話がありました通り、コロナ禍でもありますし、9時までにはというふうに聞いております。スムーズな進行に心がけたいと思いますのでまたご協力の方よろしくをお願いいたします。

（小沢課長）

続きまして宮下町長お願いいたします。

（宮下町長）

改めましてこんばんは。本日は松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会第23回目ということで、大変秋のお忙しい中、夜お集まりをいただきまして感謝申し上げます。日頃、今お集まりの皆様、大変ご尽力をいただいて何とか今、この事業が進んでいるということを改めて感謝を申し上げます。ここ数年、松川町では発生土運搬につきまして町内の皆様の注目がされております。

松川町でも不定期にモニタリング調査を抜き打ちで行っております。最後の方にまたご報告させていただきますが、全体的にマナーの良い運行をしていただいているという結果にはなっております。

す。そちらにつきましては JR さんの努力大変感謝をいたします。

また、万が一気の緩みがあって事故が起きるようなことがあると、今の努力が水の泡になってしまいますので、引き続き安全に留意をしてお願いをいたします。

また、町が行っております片桐松川沿いの道路工事につきましても、この後説明をさせていただきます。進捗状況についてのご話でございます。社会情勢もありまして苦勞している部分もございます。そのため本当に各方面に最大限の努力を、ご協力をいただいて何とかできております。引き続き工事を進めてまいりますので、ご理解とご協力よろしくお願ひいたします。

(小沢課長)

続きまして JR 東海より中央新幹線建設部名古屋建設部長古谷様、お願ひいたします。

(JR 東海／古谷部長)

どうも改めましてこんばんは。JR 東海で長野県の担当部長しております古谷でございます。本日も皆様の貴重なお時間に、ご説明の機会をいただきまして誠にありがとうございます。また日頃よりこのリニア中央新幹線の事業推進にあたりまして、対策委員会の皆様にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。

お陰様をもちまして、大鹿村でのリニアのトンネル掘削工事は、着実に進めさせていただいているという状況でございます。

本日もいつも通り大鹿村でのリニア工事の進捗状況や工事用車両の運搬台数の推移など、今後の計画についてご説明をさせていただきます。ご説明の後、皆様からしっかりとご意見をお聞きして、議論させていただき、皆様とコミュニケーションをしっかりと図って進めてまいりたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

(小沢課長)

続きまして長野県より飯田建設事務所リニア整備推進事務所調整課長大島様、お願ひいたします。

(長野県／大島課長)

皆さんこんばんは。長野県リニア整備推進事務所調整課長大島でございます。

日頃よりご参集の皆様方につきましては、県の進めております建設行政につきまして、それぞれのお立場でご理解ご協力の方を賜りまして誠にありがとうございます。

さらに JR 東海さんの方で進めておりますリニア中央新幹線工事、またその関連工事につきましてもご理解ご協力を賜りまして、そこも含めまして御礼を申し上げるところでございます。本日も忌憚ないご意見頂戴いたしまして、またこの事業が、円滑に動いていきますようにしてまいりたいと思っておりますので本日もよろしくお願ひいたします。

(小沢課長)

それではこれより会議事項に入りますけども、対策委員会設置要綱第 5 条に会議は委員長が議長となることから、黒澤委員長の進行でお願いをいたします。

(黒澤委員長)

それでは進行を務めさせていただきます。次第の3番、会議事項に入ります。(1)の発生土運搬について、ということですが、この発生土運搬について前回の対策委員会で質問等出た部分についても、回答も含めまして説明をいただくことになっておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは1)松川町よりということで、町道整備の進捗状況と運行ルートの変更時期についての説明をお願いいたします。

小沢課長説明

(黒澤委員長)

ありがとうございました。続いて、2)JR東海さんよりということで、1から4までございますけれども、よろしくお願いいたします。

太田垣課長説明

(黒澤委員長)

はい、ありがとうございました。ただいま町とJRさんより、発生土運搬についてのこれまでの運行実績の報告、それから町の方からは道路整備の遅れに関する報告、そして、今後の計画についてJRさんの方からご説明いただいたところでございます。それでは質疑応答に入りたいと思いますので、これまでの説明の中で、ご質問とご発言がございましたらお願いをしたいと思います。

いかがでしょうか？今後につきましては新たな計画等も報告の中に入ってきておりますので、またそういったこと含めてご質問なりご意見なりご発言いただければありがたいと思います。熊谷委員。

(くだもの観光協会/熊谷委員)

くだもの観光協会の熊谷と申しますよろしくお願いいたします。2点ちょっとお聞きしたいんですが、今の説明ありました駒ヶ根市に発生土を持っていくということで、新宮川岸地区土地改良事業ということで、期間が令和4年1月からが期間1、それから令和5年1月からが期間2ということで、期間1っていうのが伊那生田飯田線を使わないっていうことは、県道北林飯島線が工中であるということなのかなというふうに思います。この期間には伊那生田飯田線を使うということになっておりますが、この道路を、伊那生田飯田線をずっと行くと、ちょうど埋立地に行くのではないかなと理解をするんですが、伊那生田飯田線をずっと駒ヶ根まで行くというルートは考えなかったのかなっていうことを思います。その点が一つ。

それから、もう一点今お話がありましたさわやかウォーキングが10月31日とっておりましたが10月30日の日曜日だと思います。くだもの観光協会としても、名古屋方面から200人から300人の皆さんが伊那大島駅降りて台城公園を行って、また福与行って伊那大島に戻ってくるということ聞いております。

観光協会としてもPRの機会ということで、駅にテントを張ってチラシであるとか特産品のリンゴとか梨を販売する予定でおりますけれども、そういったことを、伊那大島駅を中心としてやっていただ

けるということは非常にありがたいなというふうに思っております。これ秋 1 回だけではなくて、例えば春であるとか、そんなことも考えていただけるとありがたいなというふうに思っております。以上 2 点、よろしくお願いいたします。

（黒澤委員長）

ありがとうございます。2 点ご質問いただきましたが、よろしくご回答の方をお願いいたします。

（JR 東海／太田垣課長）

ご意見ありがとうございます。まず 1 点目の竜東線をそのまま北上したら中沢まで行くのではないかとのことですが、道としてはずっと繋がっていますが、中川村のずっと先に坂戸橋があり、そこから先が非常に狭くて狭隘な山道でございます。そこは普通の車でも、ちょっとすれ違いが難しいところでございます。坂戸橋も大型車が通れないものですから、中川村の中でもやはり北林飯島線を通して国道に出るルートがよいということで、このような計画にさせていただいております。

2 点目は、日付を間違えており大変失礼いたしました。10 月 30 日の日曜日でございます。別の期間にもということでございますので、またそういったご意見も本社の営業部門にも伝え、できることはないかを考えてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

（くだもの観光協会／熊谷委員）

1 点目はわかりました。2 点目につきましては、こういったことが初めてでありますので、連絡を密にしながら一体何人くらい伊那大島を下りてくるのかとか、そういったことはなかなかつかめなようなんですけれど、事前にそういったことがわかるとありがたいと思っておりますので、そこら辺のことをお願いしたいと思っております。以上です。

（黒澤委員長）

さわやかウォーキングの参加人数とかを事前にということですが、JR さんの方でいかがでしょうか？

（JR 東海／太田垣課長）

いま正確な数字はちょっとないですが、数百人程度でございます。観光まちづくりセンターとは、その辺も含めて今まで調整させていただき、私ども営業部門である駅の方が調整しております。その中で一緒に連携しながら、イベントを盛り上げていければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（黒澤委員長）

はい、準備の都合もあるかと思っておりますので、参加人数棟等事前にわかった時点でまたお知らせいただければよろしいのかなと思っておりますので、JR さんの方でまたよろしくお願いをいたしたいと思っております。それでは他にご発言ございますでしょうか。新井委員。

（新井委員）

上新井区長の新井と申します。

いくつか質問させていただきたいと思うんですが、これからの通行計画の中で、やっぱり一番問題となってくるのは洞新線の工事がいつ終わるかということに関わってくると思うんですが、この1年間でですね洞新線土地の買収から始まって、それから移転だとかにやっぱり予定の時期よりもかなりやっぱり遅れざるを得ないというような状況が続いてきたのが現状だったと思います。一応来年の1月からということになっておりますが、そこら辺の読みというか計画通りいくのかどうかそこら辺をもう一度教えていただきたいなというふうに思います。

それと、藤森の交差点がですね、今後さらに台数が増える形になってまいりますので、その対策は今まで通りでいいのかどうかというところをちょっと考えていただきたいなというふうに思います。

それから洞新線とのR153との境のところに信号がつくのかつかないのかそこを早めに結論を出して、もし駄目であれば、警備員なりの立会いとか、いろんな方法を考えてもらいたいなと思います。それから四つ目に、高森の運搬しているものが、早ければ11月に終わるというお話ですし、できる限り早く終わればいいのかと思いますけど、8月に上新井の交差点の道路舗装の工事をして綺麗な横断歩道の白い線ができたんですが、たかだかまだ2ヶ月しかたたないのにかなりダンプが通った後で真っ黒に擦り切れてきているような状況も出ておりますので、高森の方の通行運搬が少しでも早く終わるように働きかけをお願いしたいと思います。最後になりますが、新宮川岸については、今回初めてお聞きしたんですが、これはやっぱり中川とか上伊那のお仕事でありますけれど、洞新線を通らないとまずいのか、こういうルートしかないのかというようなところ、ご検討いただくことが可能かどうか、ちょっと教えていただければと思います。以上いろいろすいませんがお願いします。

(黒澤委員長)

それでは最初に洞新線の工事の関係、町の方からお願いをしたいと思います。

小沢課長。

(小沢課長)

はい、ありがとうございます。洞新線の工事の工期ですけども、1工区に関しましては2月7日だったと思いました。2月7日まで工事をやってもらったら困るということで、1月一杯では、ぜひとも完成をしてくださいということで今日も打ち合わせをさせていただきました。

それから2工区の方に関しましては、12月一杯までの工期でございます、既に舗装を打ってますので、来週再来週あたりから白線も入ると思いますので、そちらの方に関しましては、工期よりだいぶ短縮した現場になっておる状況でございます。

藤森の交差点の安全対策ということでございますけども、今現在は信号機があるということで何も考えていない状況でございます。どんなことができるのかまたJRさんと検討していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

国道153号との交差点の信号機の関係でございますが、JRと飯田警察署へ行って話をさせていただきました。今作っている洞新線の方だけを右折ゾーンを作って交差点を作ってもですね。信号機はちょっとなかなか難しいということは言われております。

運動公園の方に向かっていく道も改良し、広くなった段階でまた警察の方にも話をさせていただきたいと、そういうふうに思っております。今現在は、減速線だとかカーブミラーだとか、あと止まれというような表示だとか、ポストコーンとか置いてですね、それで安全対策をしたいと思ってるの

と、あと警察からも視距不良にならないように看板、フェンス等を撤去して視距不良にならないように見通しをよくするようということで指導されておるところでございます。高森町の方が早めに終わるように働きかけということでありますので、これに関しましては JR 東海さんと高森町の方にこちらから働きかけをしていきたいと思っております。

(黒澤委員長)

はい、駒ヶ根の方の運搬の関係については JR さんお願いいたします。

(JR 東海/太田垣課長)

駒ヶ根への運行ルートについては、先ほどご説明しましたが、3つの理由からワンウェイにさせていただきたいと考えてございます。

1つ目は、洞新線と県道北林飯田線の両方とも発生土運搬を見据えて改良工事をしてもらっておりますが、それには私どもも協力させていただいているところが1点。

2つ目は、運行ルートを分散化することが安全面においても、ご地元へのご不便という点でも、分散化した方が良いと考えているということ。

最後に、交差点の形状を考えたときに、T字路を右に出るのは非常に出にくいものですから、なるべくそれを避けたルートで運行させていただきたいということで、今回の案を考えているところでございます。北林飯島線も改良されますが、なかなかたくさんの車両を往復で通行するのも難しいところもございますので、ご理解いただければと思います。

(黒澤委員長)

はい、町の回答ですね、洞新線の工事の遅れについては再三遅れてきているので、ご心配されるかと思うんですね。また遅れるんではないかという。そこら辺の確実性という部分について、踏み込んでご回答いただきたいなと思います。それと洞新線と国道との信号ですけれども、要望しているという最初の答弁でありましたけれども、ただいまの説明では、運動公園方面ができないと信号設置は難しいというそういう説明になりました。運動公園方面への道という計画はどういう形になっているのかっていうのも含めてですね。当面信号ができないというふうに判断すべきなのかどうかっていうところがあるかと思っておりますので、町の方はその点についてもう少ししっかりと回答をお願いしたいと思います。

(小沢課長)

洞新線に関しましては、今度12月からJR東海のダンプに限って仮通行という形です。そこに約3mの防音壁を設置する予定になっております。今現在は大型のコンクリート擁壁をやりましたので、防音壁をとにかくつけて仮通行をお願いしたいということで今日は打ち合わせをさせていただきました。防音壁がまだ先に設置するというのでやってきましたけども、それを前倒しをやってほしいということでお願いしましたので、それを踏まえてやっていきます。

それから、今現在は国道の方の側溝の関係も自営工事書類を出して、県の方で見てもらってますので、それが終わり次第すぐに工事の方に入りますので現場の方は1月一杯までには何とか舗装までやって、安全管理もきちんとしたものを作りたいと思っております。

それから今153号との交差点のところの信号機でありますけども、警察の方にはそういうように

言われておりますけれども、要望は今現在しておりますので、これからも片側しかできてなくても信号機の要望をしていきたいと思ってます。ただ、今現在の飯田警察署の担当者の方からの返事はそういうような内容であったということでございますのでご理解いただきたいと思います。お願いいたします。

（黒澤委員長）

はい、それでは新井委員さん、いかがでしょうか？

（新井委員）

洞新線工事の完成、出来上がりが 1 月末であまり計画が狂うことのないようにぜひお願いしたいと思います。以上です。

（黒澤委員長）

はい、それでは他にご発言ございますか。はい矢澤委員さんどうぞ。

（矢澤委員）

上片桐区長の矢澤です。毎回同じようなこと言って申し訳ないんですが、国道の鶴部線、小松川橋そして洞新線に出会うその道路の関係なんですけども、ざっと計算してみると、通るのが今 120 台。上赤須の工事が入るとそこへ 70 台プラスされて 190 台。中沢の工事が入ると 150 台ですので、最悪、多いときは 270 台通ると。中川の道路改良されても半分だから 195 台とか 200 台通ると。あその小松川橋近辺の道路、私は生活道路として使ってるんですけども、護岸線から降りてきて、国道でぶつかって右、左へ曲がるんですけど、その道路をどのくらい車が走ってるか実態を捉えているかどうか。私は生活道路のようによく使うんで、今でさえですね、左に曲がるのは楽なんですけど、右へ曲がる飯田方面に行くのがなかなか難しい状況になることがあるんです。ですので、ちょっとそこら辺、あその護岸線のぶつかるところは平常何台ぐらい通るのか。あの生活道路になってるんで、そこら辺をどんなふうに捉えていらっしゃるかと。そこら辺をちょっと教えていただければと思いますけども。

（黒澤委員長）

はい、ありがとうございます。護岸線と 153 号線の国道との交差点のところだと思いますが、そこも信号のない T の字の交差点なんで、なかなか右折ができないという状況をお話がありましたけれども、実態把握について JR さんの方ですか。

（JR 東海／太田垣課長）

大変申し訳ございません、前回もお話をいただいておりました。過去に藤森交差点で計測したデータはありますし、国道については県もデータを持ってると思います。本日持ってくるを忘れてしまいました。その点については本当に申し訳ございません。次回までに、そのデータをご説明できるようにしたいと存じます。



(黒澤委員長)

はい、生活道路だということで、また発生土運搬も護岸線を通るようになるわけで、実態把握とその交差点の部分に対する対策みたいなものは JR さんの方はどのようにお考えでしょうか？

(JR 東海／太田垣課長)

私どもは、国道 153 号から護岸線の方に左折で入る計画でございますので、それについては入れるのかなと思っております。逆に対向車については、車両台数も確認の上、確認してまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

(黒澤委員長)

はい、矢澤委員さんいかがですか。

(矢澤委員)

すごく危険な道路状況になるのではないかなと、普段通りながら感じておりますんで。信号もありませんし、つけることまで出来ないと思うんですけども、ちょっとそこら辺、また検討していただければありがたいかなと、そんなふうに思います。以上です。

(JR 東海／太田垣課長)

私どもの承知している対応としては、洞新線の新しく交差点ができるのに踏まえて、国道 153 号の方に、減速を促すようなペイントもされるような計画だと承知してます。そういった点も踏まえて町と検討してまいりたいと思います。よろしくお願いします。

(黒澤委員長)

町の方での対応策の考えはございますか。

(小沢課長)

確かに私も通ったことがありますけども護岸線から 153 号に出るのは出づらいというような、そういう形がありますので、南から JR のダンプが来て、もし車が止まってるようだったら国道の方に出るように促してほしいというような形で JR さんの方には要望していきます。国道をダンプが駒ヶ根に向かって走っておって、護岸線のところに車が止まっているようでしたら、譲っていただきたいというような、そういうような形で JR さんに要望したいと思ってます。よろしくお願いします。

(黒澤委員長)

はい、よろしいでしょうかね矢澤委員さん。ご心配かと思うんですけども非常に。

(矢澤委員)

あの心配です。それだけです。

(黒澤委員長)

はい、生活道路で出られない状況、それから安全面についてご心配のご意見ですので、通行台数等

も含めましてですね。実態把握をする中で事前に安全対策等、また町と JR さんの方で連携をしてお願いをしたいかと思えますけれども、よろしくお願い致します。

(黒澤委員長)

それでは他にご発言ございますでしょうか？はい、寺沢委員さんどうぞ。

(寺沢委員)

令和 5 年度とそれから令和 6 年度まで、ここに説明がございますけど、どこで切るかはよくわかりませんが、この線でいきますと伊那インターを 5 年度で終わり。その緑色の線は期間 1 期間 2 があって続いていく、この黒いのも続いていくということで、地元の前河原、検討中の活用先、それから市田は終わっていくということで、今ここまで、どこで切ってもいいんですけど、JR さんの試算はきちっとできてると思うんですけど、今までの工事で令和 5 年度できるか 6 年度で切ってもどこで切ってもいいんですけど、発生残土は相対的に試算しまして、出てくるトンネル工事の発生土は、どこまで終わったんでしょうか。何割終わったという試算が出ているんでしょうか？大鹿から伊那谷へ出てくる残土。もう緻密な工事ですのでもちろんわかっているとありますがどうでしょうか。何割、残土のことに限って言えば、終わったんでしょうか？

(黒澤委員長)

どのぐらい何%、何割程度搬出が進んだかというご質問ですが、JR さんの方でご回答をお願いしたいと思います。

(JR 東海／太田垣課長)

ご意見ご質問ありがとうございます。何割発生土を運搬したかっていうのはちょっと正確にはつかめてないんですけども、少なくともこのトンネルの進捗を考えた場合、まだまだトンネルを掘っていかなければならないものですから、この先も発生土運搬は、続いていくというところがございます。答えになってないかもしれませんが、まだまだ相当な数の発生土は運搬しなければならないという考えでございます。

(黒澤委員長)

はい、寺沢委員どうぞ。

(寺沢委員)

非常におかしいと思います。トンネルの長さや、伊那谷に出てくるトンネルの体積。そういったものは、緻密に考えれば当然わかっているべきで、計算済みだと思います。それがこれからどの程度あったのかわからないというはずはないと思うんですけどいかがでしょうか？

(JR 東海／古谷部長)

ご意見ご質問ありがとうございます。大鹿村の南アルプストンネルで言えば、最初のスライドで説明しました、斜坑・先進坑・本坑を掘っていきますが、これらの全延長の掘削延長でいうと大体 3 割ぐらいの掘削は終わっています。

この 3 割の土が、今それぞれの発生土置き場ですとか、それから公共事業の有効活用先の方に持っていているという状況でございます。

ですので、まだ残りがだいぶございますので、きちんとこういった形で皆様にいつの時期に何台ぐらい通らせてもらいたいというお話をしながら、進めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

（黒澤委員長）

はい、何割ぐらい終わったかという情報をまだつかんでらっしゃらないということですが、我々住民としてはいつ終わるのか、果てしなく続くというのは非常に不安にもなりますし、何%ぐらい済んだよってものを示していただければありがたいかなと思います。

それでは寺沢委員、どうぞ。

（寺沢委員）

要するに 3 割ぐらいということですけど、ただ、工事した残土がまだ置いてあって搬出していないものもありますよね。それはどのぐらいなんでしょうか？

（JR 東海／古谷部長）

南アルプストンネルの仮置きについては、掘削したすぐ横のところで仮置きをしております。一応、南アルプストンネルの施工期間としては 2026 年の 11 月までには何とかトンネルの掘削を終わらせたいと考えておりますので、それまでに仮置きされた土も合わせて出せばなというふうには考えております。ただこれは現時点の予定です。予定が変われば、松川町もそうですが、大鹿村や中川村にもお話をしながら進めていくことになります。現時点の予定は 2026 年 11 月でトンネルの掘削工事は終えたいと考えております。

（寺沢委員）

年度はわかりました。発生土 3 割ぐらい、残土は工事を含めてそこに置いてあるものも含めて 3 割だということですけど、あとの 7 割というものは膨大なものがありますね。それを 26 年までに運び出すということは、相当な量を運び出さないと工事が終わらないってことですよ。ですからトンネルができて完成してもうその後もまだ運び出さなきゃならないということだというふうに前は聞いたんですが、それはそういう理解でよろしいんですか。

（JR 東海／古谷部長）

3 割ってというのは全掘削延長の 3 割ということになりますが、運び出すということについては、我々としては 11 ページに「松川インター大鹿線半の沢道路改築工事」と書いてありますが、こういった形で、できるだけ松川町まで行かずに置けるような発生土置き場や有効活用先、こういったところも確保しつつ進めていきたいと考えております。トンネルの掘削は、先ほど 2026 年内には終わらせたいというお話をさせていただきましたが、当然今後の予定も変わってくるかもしれませんので、そういったときにはきちんと皆様にご説明をさせていただきながら進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(黒澤委員長)

はい、寺沢委員さん。

(寺沢委員)

ご説明はよくわかりましたけど、これは相当な大変なことだなということで、JRさんでなくても地元の方でもこれはえらいことじゃないというふうに考えます。先が不透明ということで。そういう大きなものを覚悟しなくちゃならないという私は実感を、私はいち住民ですけども、実感を持ちました。大変ご苦労様でございますが、本当に大変なことだなという感想でございます。

(黒澤委員長)

はい、ご発言をいただきましたが、まだまだ続くというそういう理解ということでございます。また他にご発言あれば、矢沢委員さんどうぞ。

(矢沢委員)

最初にお聞きすればよかったんですけど、ちょっと教えていただきたいと思うんですけども、リニア対策委員会の最初頃、私が参加させて頂いた頃、中川村の小和田でしたっけな、大量の土砂を運搬するという、そんな話を聞きしたんですけども。会のあるたびに上伊那の伊那市、そして今度は上赤須、今度はまた駒ヶ根の中沢と、どんどん会があるたびに運搬が増えていくような感じなんですけども、中川村に予定していた運搬の計画は今どんなふうになっているか教えていただきたいと思っております。

(黒澤委員長)

JRさんの方でお願いをいたします。

(JR 東海／太田垣課長)

中川村の方でそういう事業を今計画しているっていうところは、既に報道でもされていると思いますが、私どもとしてはまだ協議している段階でございますので、私どもが運搬計画を説明するのは、持って行き場が決まった順番にご説明させていただくというところでございます。まだ協議中のところについては、具体的には申し上げられないところでございますので、また決まりましたらご説明させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(黒澤委員長)

決まりましたらというご回答でしたけど、方向性としてはそこへは持っていく方向にならないこともあるんですか。方向性としては中川へ持っていくということは確実と理解しとってよろしいのかな。

(JR 東海／太田垣課長)

持ってくることを前提に協議をさせていただいております。

(黒澤委員長)

はい、持っていくことを前提にということですから、持っていく方向で考えて協議をしているということのようですが、まだ時期的なものまではまだ申し上げられないという、協議中というそういうご回答でございますけど、矢澤委員さんそういうことでよろしいでしょうかね。

(矢澤委員)

はいわかりました。でもどんどんどんどん増えてきては困るので、そこら辺も考慮していただきたいのと、そんなふうに希望しますけれども、以上ですけど。

(黒澤委員長)

はい、松川町を通る部分が重複してどんどん増えていくってということのないようなこのスケジュール感でお願いしたいってということかと思えますので、またよろしくお願ひしたいと思えますが。他にご発言ございますか。よろしいでしょうかね。皆さん。まだ予定してた時間には余裕がございますけれども、気になることがございましたら、よろしくどうぞお願ひいたします。

(北原委員)

北原と申します。2点ほどお伺いをしたいんですが。一点はこちらからの希望ということをお願いをさせていただきたい件が、先ほど伊那からの車、鶴部線を下る車がありますが、そこをおそらくご存知だと思うんですが、下から来る車は感知式ということで、一般の乗用車等々がそこに止まります。停止線をオーバーして止まっている関係で、たまにダンプ左回りで降りていくんですが、その1台のために大きく回りきれない。ということでしつぽが153号へ出てしまうんですね。ですので、できる限り地元の車両であるとか一般車両のマイカーが感知の位置とそれから停止線の位置を把握して止まってればいいんですが、中にはそれよりかも1~2m手前で止まる車が多々あります。まあそんなことっていう対策はおそらく告知をそこにしてもらって、停止線の位置を確実にマナーとして守ってもらうようなその表記の仕方ができないかと。それとちょっと前お話ししたように、仮の鉄板を左側の水路の上にかけて、車両そのものを左に寄せるような形でスムーズに車が回り込むことができなかと。そんなような形の対策というのは、今後いろんな形の中で考えていただければなと思うんですがどうでしょう。停止線の関係はこれ県の交通安全協会が何かですかね。感知のあれと連動してると思うんですが。

(黒澤委員長)

はい感応式の反応の仕方によってということ、止まる位置を具体的にご指摘いただきましたけれども、町の方は把握してますか。

(小沢課長)

停止線で止まってくればいいんですが、運転手によっては出ちゃう人もいるような感じがします。ただどういうことをすればきちんと停止線で止まるっていうのはちょっとまだ答えが出てませんので、こちらで現地の方をパトロールしたりですね、現地のところで止まって安協の黄色い服でも借りてですね、指導じゃないですけども、職員の方でできることをやりたいと思ってます。運転手のマナーの問題になりますので、なかなか難しい問題かなというふうに思いますが、黄色い服を着て、現地で立ってきちんと停止線に止まってもらうような形で、交通安全指導したいと思っております。

よろしくをお願いします。

（黒澤委員長）

はい、なかなかどこら辺に止まれば反応してもらえるのかっていうのはわからない。一般車も含めてですね、あまりわかりにくいと思うんですよね。そんな関係もあるかと思imasるので、また町の方でも実態把握をしながら、対応策をまた考えていただきたいなと思imasけど、まだありますか小沢課長。

（小沢課長）

現地の方は停止線はありますけど、その他はどうもないみたいですので、感知する機械の下に白い円でも書いて、そこに車止まるように促すような形でやってみたいと思imasるのでお願いします。

（黒澤委員長）

やはりそういう何らかの対応策ができるならば、やっていただいた方がいいかなと思imas。はい、北原さんどうぞ。

（北原委員）

車両がやっぱりこれ以上また増えてくるということになると、そのしっほの問題だけで渋滞の元を作ると思imas。それと、2便目の車が帰ってくる頃にちょうどドライバーの目線の位置から太陽がまともに入ってくるんですよ。ちょうど運転台に。信号のカラーも、我々もそうですが、何の色だろうっていう、太陽と信号機の位置が一緒になるときあります。大型の場合特にそうです。そういうところも含めてですね、左回り込むっていうのはそこに障害物の車がなければスッと回れるんですが、1台が邪魔をすることにおいてしっほが出てるので、そういうことについては大型の方たちはいろんな会社からの指摘等で学べると思imasが、一般の人間が停止線をオーバーするという状況があるので、何かの告知を、必ずこの位置で待てというような看板でも何でもいいんですが、目に入るようなものでも表記をしてもらおうといいんじゃないかなと。

再三私も大型の運転手さんの件については、ご指摘をさせてもらったんですが、ずっとそれから見てますと、非常にマナー良く運転されています。逆に良すぎると、地元の車が非常に乱雑でちょっと荒い運転手が数人おります。この会はもうリア車を中心に話を進めています、実際地元のダンプってどのくらい走っているか知ってますか。だからプラス150台じゃないんですよ。地元の車とそれから今小渋川の沿線で残土の搬出もやってますので、やっぱりそういう車は徹底したJRさんみたいな教育を受けてないために、どうしても数人やっぱり荒い運転者がいると。まあそういう何人かちょっと聞いてみると、やっぱり自分たちはこの地元で大手を振って仕事をやってるんだぐらいのことを言ってるので、なんていうかね、名張意識というか。運転手って変なところがあるんですよ。ですので、これ町の方からまた協議会等々の会議があったときは、先ほど小沢さんにもちょっとお願いしたんですが、やはりみんながルールを守るっていうのが原則であるので、一部の車両にかき回されると、またそれがイコールJRさんの残土運搬の車っていう風に。我々はわかるけれども、特に女性の皆さんが大型のダンプがもう、ということに変わるので、ぜひこれは町からもまたそういう会社に対し、JRさんからもそうですが、機会があれば、いろいろお願いというか、ルールを守ってもらうことの告知をしていただくのが一番ベターではないかなと思imas。

新井の交差点なんかも、先ほど綺麗な横断歩道ができたなと思ったけど本当3日ですよ、私見てましたけど。やっぱりそれも運転者の気持ちわかるんですよ。1台向かう車が信号変わったから一緒に出てくるんでいいんです。中には左側を本当にミラーを見ながら、歩行者はいないにしてもゆっくり回る車があれば、運転手の運転技術というか性格の問題じゃないかなと思います。目いっぱい回して回ってっていう、ですからどうしても前へ押されるのでフロントで横断歩道の白線を踏んでいくギュッと擦り付けるってこういう傾向になるんじゃないかなということがあります。そういう点も含めて、また運転手のマナーについては向上していただくと、これからまた冬を迎えるとですね、大変にあちこちでやっぱり旅の方たちそうですが、慣れない場所を走らなきゃいけないので、ぜひ交通マナーについてはぜひ一つ事故がないように徹底した形をお願いをしたいんです。

あと、くだもの協会の熊谷さん言ったけども、あんたたち小さいよ、お願いすることが。JRさんは巨大な企業だけ。PRするには本当極端なラッピングでもいいくらいだよ。松川町に恩恵があるのってそんなもんだよ。そんな重箱の隅をついたようなね、ウォーキングもいいんだけど、それではPRにならないんだよ。もっとでかい、でかいことをお願いした方がいいと思う。以上です。

(黒澤委員長)

はい様々ご提案を含めていただきました。先ほどの交差点のところはなかなか非常に難しい交差点かと思います。現地を確認する中で、またできる対策を町とJRさん連携してお願いをしたいかと思えます。またマナーの啓発、JRさんの関係するダンプについては私の方にも非常にいい運転をされているという話は声が届いております。そういった中で他のダンプさんも含めてですね、また町を中心として啓発活動をしっかりやっていただくことが大事なかなと思いますのでよろしくお願いをしたいと思えます。それでは他にもう一方よろしくどうぞ。

(西尾委員)

公募委員の西尾でございます。私の方から2点質問させていただきます。

1点は新聞報道等で何回か出ておりますけど、要対策土についてのことでございます。これから膨大な量の掘削が進められると思うんですが、要対策土ってのは重金属を含む普通の発生土と違う、明確に一定の基準を持って管理をしなければいけない対策土というふうに理解してるんですが、その公共工事に使ってくださいねというお願いをしましたと、それはなかなかそう簡単に首を縦に振れることではございませんよねというのは飯田の佐藤市長がおっしゃったと思うんですが、かなり前に新聞報道で耳にしたんですが、これについては大鹿ストックヤードで実証実験に入ると、それを専門家を交えて評価するんだというような記事もここ1ヶ月前ぐらいですかね、目にしたんですけども、要対策土についてはですね、正直よくわからないので、どういうもので本当にその公共工事で使えるようなものなのかどうかということも含めて勉強会をしたらどうでしょうかねということをお太田垣さんから工藤さんに直接申し上げあげてご提案申し上げたことがあるんですけども、それはどういうふうに判断されるか、それはJR東海さんのご判断で結構なんですけれども、実際こういう実証実験をストックヤードでやってですね、安全でございますから皆さんこれ以上ガタガタ言わないでくださいねってなやり方は非常に困るというふうに思うので、その辺の何らかの形でですね、事前に我々が納得しうるような形での要対策土とは一体なんぞやということについての勉強会といいますか学習会みたいなもので、やっぱり必要なのではないかなというふうに私個人とは思ってます。

それについてのお考えをお聞かせいただきたいと。大鹿村でやろうとしてる実証実験の概要等も、もし教えていただけるものがあれば教えてくださいと、これが1点です。

それからもう一点は、9月8日ですかね、豊丘村で発生した労災事故がありますよね。これは9日付の毎日新聞デジタルで私も目にして、そういうことだったのかということを知ったんですけれども。JR東海さんの本社の広報が、JR東海としては労災事故はいちいち発表してないんですということで、発生原因だとか状況だとかということについて、コメントが得られませんでしたという記事だったんですけれども、これはJR東海さんは、それは数多くの現場抱えているので、いちいちそんなの片っ端から発表できるかい、というのは当然のことだと思うんですが、リニアの工事っていうのは、こういう我々の対策会議もしくは連絡協議会みたいなもので、やっぱり丁寧に説明していただけてくると思うんですよね。

ですから、ちょっとスタンスが急に変わったのかなみたいな印象を、その記事を見て思ったんですが、その辺はいかがでしょうかというのが2番目の質問でございます。以上です。

(黒澤委員長)

はい、2点ほどいただきましたが。

(JR東海/古谷部長)

ご意見ご質問ありがとうございます。まず1点目の要対策土、いわゆる自然由来重金属が含まれている基準値を超えた発生土ですね、これを対策土と呼んでいるわけですが、このお話は大鹿村の方では、どういったものなのかっていうお話をさせてもらいました。大鹿の連絡協議会でさせてもらいましたので、次回でよろしいですかね。次回の対策委員会で、対策土っていうのはどういうものなのかっていうのを、ご説明させていただく機会をいただければ、ご説明させていただきたいと思っています。この話は南信州広域連合の方で、公開の場で市町村長の方々にも、町長にも入ってもらって、お話をしている内容ですので何ら隠すものでもない、皆さんに要対策土っていうのはこういうものだっていうものをご説明させていただければと思いますので、次回のこの対策委員会でご説明をさせていただければと思います。

それから2点目ですね、当社の発注している施工会社の方で、作業員が怪我をするという労働災害ですが、これは会社的には発生したときの公表というのは基本的にはしておりません。ただ、前回前々回でも、きちんと原因を究明して、再発防止対策をきちんとできた暁には、こういった対策協議会や対策委員会でご説明させていただきたいと思っております。先月の豊丘村で発生していました怪我につきましては、今しっかりと原因を究明して再発防止対策を練っているところでございますので、こちらもしっかりと取りまとめが終わりましたら、次回の対策委員会でご説明させていただければと思いますのでよろしく申し上げます。

(黒澤委員長)

西尾委員さんよろしいでしょうかね。

(西尾委員)

ありがとうございます。次回、要対策土についてのご説明をいただけるということなので、内容を期待したいと思います。それから労災事故の関係はですね、先ほど申し上げた通りせっかく今までい



ろんな形でご努力をいただいて一定程度の信頼感というのがございますから、それを損なうようなことをすると、やっぱり大鹿村から 330 万<sup>m</sup>出てくる発生土ほとんど松川町を通過してあちこちデリバリするということになるので、そういった我々としての感情も当然ありますから、引き続き丁寧なご説明をお願いしたいなというふうに考えております。以上でございます。

(黒澤委員長)

それではまた次回の対策委員会ということでよろしくお願ひしたいと思ひます。それでは他にご発言ございますでしょうか？よろしいでしょうかね。時間も経過してまいりましたので、それでは会議事項の発生土運搬について質疑応答まで終了ということにさせていただきますたいと思ひます。

私事でございますけれども、事務局から次回の対策委員会は 12 月というふうに聞いております。議会の組織替え等がございます、次回の対策委員会は新しい委員長が就任するかと思ひますので、私の委員長の対策委員会としては最後になるかなと思ひております。約 2 年間にわたりまして対策委員会の委員の皆さん、それから JR の皆さん大変ご協力いただき、真摯に協議をしていただきましたことに感謝を申し上げまして、会議事項を終了とさせていただきますたいと思ひます。ありがとうございました。

それでは、進行を町の方にお返ししたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。以上です。

(小沢課長)

委員長ありがとうございました。それでは 4 番のその他でございます。松川町のリニア関連事業についてということですが、委員会の資料の 4 ページをお願ひいたします。

小沢課長説明

(小沢課長)

続きまして、モニタリング調査と移動コンテナ局の測定結果ということで片桐係長の方より説明をしてもらいます。

片桐係長説明

(小沢課長)

最後になりますが、9 月末をもちまして委員の方であられました橋爪和也様が、一身上の都合により退任されたいということでございます。ここにご報告申し上げます。よろしくお願ひいたします。それでは最後にもう一度質問を受け付けますが何かありますか？

コロナ禍の会議ですので、これで終了したいと思ひます。閉会を、下澤副委員長お願ひいたします。

## 5. 閉会

(下澤副委員長)

お疲れの中、熱心にご審議いただきましてありがとうございました。それではこれもちまして本日の会議を閉じさせていただきます。ご苦勞様でございました。